

研究・調査報告書

報告書番号	担当
6 6	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Severe chronic pancreatitis and severe liver cirrhosis have different frequencies and are independent risk factors in male Japanese alcoholics 日本人男性アルコール依存症者における重度の慢性膵炎と重度の肝硬変の頻度の相違と、それらに関する危険因子	
執筆者 Nakamura Y, Kobayashi Y, Ishikawa A, Maruyama K, Higuchi S	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Journal of Gastroenterology 2004; 39:879-887.	
キーワード 肝硬変、Child-Pugh 分類、慢性膵炎、ERCP、アルコール	
要 旨 <p>背景：慢性膵炎と慢性肝硬変は主要なアルコール関連疾患であるが、これらの疾患の特異的な病因や相互の関連についてはよく分かっていない。そこで、アルコール性慢性膵炎とアルコール性肝硬変との相互関係および、これらの疾患に関連する要因をあきらかにすることを目的とした。</p> <p>方法：2000年7月から2002年11月の間に久里浜病院に入院した男性アルコール依存症入院患者のうち、141名のインフォームドコンセントを得て研究を実施した。対象者にアルコール性慢性膵炎とアルコール性肝硬変以外の主要な病態（ウイルス性肝炎、手術歴、悪性疾患の既往）を認めなかった。患者情報は、面接により調査された。それらの項目は、飲酒歴（量と期間）、喫煙歴、教育歴、従事した職業と期間、婚姻歴等である。また、慢性膵炎の逆行性膵胆管造影所見と肝硬変のChild-Pugh分類が検討に用いられた。遺伝子調査に同意した対象者（83名）については、アルコール代謝に関する二つの重要な遺伝子多型（ALDH2とADH2）が分析された。</p> <p>結果：慢性膵炎の所見と肝硬変の所見は、その重傷度において要因との間に、並行した正の段階的な関連は見られなかった。これは、多くの因子を調整しても同様であった。蒸留酒を飲むことと日々の多量飲酒は、それぞれ独立して慢性膵炎と関連していた。過去に婚姻歴のない状況は、肝硬変とのみ関連していた。</p> <p>結論：慢性膵炎と慢性肝硬変はどちらも多量飲酒によって生じるが、発症に関連する危険因子は両者で異なり、そのことが、両者の重症度に要因との関連において、並行した正の段階的な関連が見られなかったことと関連しているようである。</p>	